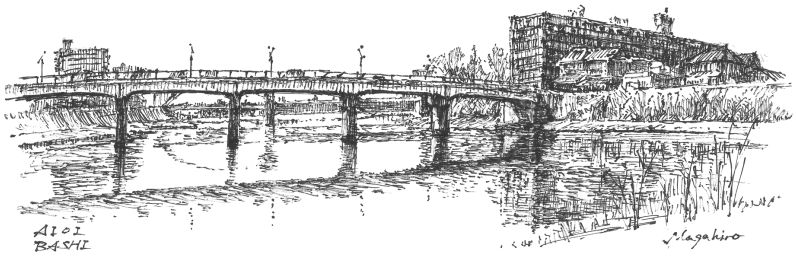
標点

少子化と学校統合

吉備中央町教育委員会　教育長
津島雅章



現在のわが国が抱えている問題の一つに人口の減少があります。平成二十年をピークに人口減少局面に入っている状況が見られるといわれています。いわゆる少子化の傾向です。

この少子化の傾向でより大きな影響を受けているのが、全てではありませんが町村です。

児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通して、一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえたとき、小中学校では、一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考えられます。

そう考えると、すぐ頭に浮かぶのが学校の統合です。児童生徒数が減ってきたから学校を統合して、規模を大きくして教育しようというものです。

一方で、小中学校は児童生徒の教育の場であるだけでなく、それぞれの地域の文化センター的な性格を有することが多く、防災、保育、地域社会の交流の場、地域住民の心の支えなど、様々な機能を持っています。統合によって廃校になると、その地域は活力が失われ、よりさびしいものになる恐れがあります。

私の町、吉備中央町には、九校の小学校があり、いずれも小規模校です。「統合を」「存続を」と両方の声が聞こえてきます。そうした中で、吉備中央町教育委員会では、小規模校のメリットをもっともっと生かすこと、デメリットを少しでも減らすことを奨励しています。例えば、多くを語らなくても相手に理解してもらえ、コミュニケーション能力が育ちにくいことを少しでも抑えるために、縦割り活動、全校活動、複数学年による活動、中学校や保幼との連携活動などを勧めています。

これらに加えて、ここ二年は他校との連携活動に取り組むよう勧めているところです。これは複数校の同学年が一校に集まり、合同で授業などの活動を行います。日程調整や指導案作りの負担が担任にかかりますが、他校の教師の指導法が参考や刺激になることもあるようです。児童たちは、初めは恥ずかしかったり気おくれしたりして、おとなしくしていましたが、多人数の前で話したり一緒に活動したりするうちに、次第に他校の児童たちとのつながりもでき、この活動を楽しみにするようになりました。複数校の児童が一つの学校でいろいろな活動をすることは、小規模校のデメリットを減らすことにつながると考えています。

学校規模の適正化については行政が一方的に進めるのではなく、様々な地域の声を聴きながら、地域とともにある学校づくりの視点を踏まえたものでなくてはならないと考えています。これから更に進むことが予想される少子化ですが、丁寧な議論を行うことが望まれるものだと考えています。